

## 経済学部創立 90 周年を迎えて

なにかとご多忙なか、貴重な時間を割いて、滋賀大学経済学部創立 90 周年記念式典にご臨席くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

さて、本学部は 1922 年 10 月に彦根高等商業学校として開校され、翌年 4 月にはじめての学生を迎え入れました。そのときから数えて本年で 90 周年を迎えます。90 年というのはほぼ 1 世紀に相当し、やはりずっしりとした重みを感じさせてくれる年月です。じっさい、この間社会はじつに大きな変動を蒙ってきました。東日本大震災は私たちの記憶に新しいところですが、90 年前の 1923 年というのは関東大震災の年にあたります。第一次世界大戦後の経済不安が深まり、政治的、経済的動乱と戦争の時代に突入してゆこうとするまさにそうした時代に本学は産声をあげたというわけです。そして、敗戦と戦後の混乱を経て、日本は高度経済成長を果たし、生活スタイルも一新されて、豊かな社会を謳歌するようになりました。この間、IT 技術に象徴されるように、技術発展にもめざましいものがありました。しかし、ご承知のように、現在はますます深化するグローバル化の荒波に翻弄され、格差や貧困が再び大きな社会問題になってきています。

本学は、こうした社会の大変動を乗り越えて、経済学科、企業経営学科という伝統的学科に加えて、後者から会計情報学科を独立させ、またファイナンス学科、情報管理学科という先端の学科を整備してきました。さらに、学際性に富み、グローバル化社会に相応しい社会システム学科を発足させて、いまや、豊かで多彩な 6 学科を誇るユニークな経済学部に発展することができました。大学院においても、博士前期課程に第三の専攻としてグローバル・ファイナンス専攻を加えるとともに、10 年前には、時代のキーワードであるリスクを機関名に冠した、経済・経営リスク専攻という博士後期課程を発足させました。

また、研究面においては、彦根高等商業学校時代から厚い研究実績を蓄積してきた近江商人研究が史料館に継承されてますます発展を遂げようとしています。さらに、同窓会の全面のご支援の下、博士後期課程発足と同時に設立することのできたリスク研究センターは、中国、ベトナム、韓国の諸大学と意欲的に国際共同研究を推進し、いま南北アメリカ大陸を視野にメキシコとも新たな共同研究に乗り出そうとしています。

このように、本学は、時代のニーズに鋭敏に responding 社会的使命を果たそうと努めながら発展してきましたが、教育内容や方法においても、先駆的に特色ある取り組みを実践してきました。基礎となる専門諸科目（コア科目）には同一科目に複数クラスを設け、またその主要部分には演習問題をこなしながら理論を体得するセッションのクラスを多数設けて、確かな理解を培おうとしています。コア科目群には歴史系や哲学系の科目をも加えて、広い視野で経済を視る思考を誘うように工夫もしています。さらに、主体的な学習をサポートする学習ポートフォリオシステムを提供したり、フィールドに出て実践的課題に取り組む PBL 型のプロジェクト科目も多数開講するようになりました。大学院においても、野

村総合研究所との連携大学院の設置が象徴するように、理論と実践の融合を通じた、主体的でイノベティブな高度専門職業人を育成することに努めています。

創立 90 周年にあたり、堅実な専門知識と幅広い教養を培うこと、かつ注入主義の学習ではなく主体的に学ぶ姿勢をもってそうした学力を培い、主体的でイノベティブな専門職業人を育成することという上記のような本学の教育の特色が、彦根高等商業学校以来の伝統であったことに、あらためて想いをいたしています。こうした伝統こそ、多くの有為な人材を社会に送り出してきた本学の教育の真髄でした。とともに、多様な要因が複雑に絡み合いながら急速に変化してゆく現代社会だからこそ、今後この社会を担ってゆく若人にはぜひ身につけてほしい資質を育む教育であると確信しています。こうした想いで、10 年後の 100 周年に向けてさらに飛躍すべく、いっそう教育・研究に励みたいと思いますので、皆様には今後とも本学の歩みを温かく見守り、ご指導、ご支援くださいますことを心よりお願い申し上げます。

平成 25 年 11 月 3 日

経済学部長 梅澤直樹